

岡山県生涯学習センター未来科学棟（仮称）整備基本計画の概要

～未来につながる科学の学び・体験・交流の発信拠点の整備に向けて～

岡山県教育委員会

第1章 現状と課題等

- ・子どもたちの理科離れ、科学等への関心の高まり
- ・世代を超えたつながりや体験の機会の不足
- ・多様な主体との連携・協働の必要性
- ・岡山県が世界に誇る技術や研究成果等強みの発信の必要性

第2章 基本方針

＜未来科学棟の役割＞

県生涯学習センターの一部として、幅広い世代が科学に対する興味・関心等高め豊かな科学的素養を育成する「未来につながる科学の学び・体験・交流の発信拠点」と位置付ける。

＜未来科学棟の目指すべき方向＞

岡山の科学に関する「知」を結集した「連携・協働型科学棟」

科学に関する人材やコンテンツ等の「知」を結集し、県広域に発信するネットワークの拠点へ

方向性1：学校教育との連携による創造性豊かな人材の育成

→学習指導要領に対応したプログラムの実施等、全県的な理科学習の補完的役割を果たす場に

方向性2：幅広い世代の体験・交流を生みだす場の提供

→科学を通じて幅広い世代が楽しく学び交流し、世代を超えたつながりを生みだす場に

＜事業・コンテンツの3つのテーマ＞

県内企業や大学、NPO等と連携・協働し岡山の特性を生かした事業・コンテンツを提供。

①地球・宇宙と科学～地球や宇宙科学に関する映像・プラネタリウム

→県内の天体研究機関等と連携した岡山オリジナル映像コンテンツ等を発信

②地域資源と科学～岡山の科学的資産を活用したものづくり技術や科学

→県内企業や大学等の先端技術、ものづくり技術等のオンリーワンを発信

③暮らし・環境と科学～岡山の自然や身近な題材による科学

→身近な題材による科学の学習プログラム・実験教室等、岡山の日常から科学を発信

第3章 施設計画

未来科学棟の役割を達成するため、施設を改修し別紙のようなエリア・諸室を整備する。

その際、既存のセンター等との相互の動線、災害時の安全確保とともに、ユニバーサルデザインや省エネに配慮した計画とする。

また、プラネタリウムは、光学式の精彩な星像とデジタル式の多彩で迫力のある映像展開を兼ね備えた方式とする。

第4章 管理運営計画

<運営計画>

①県生涯学習センターの一機能としての運営

県生涯学習センターが担ってきた広域性、先進性に留意した以下の機能を果たしていく。

(各々の機能に応じた主な取組例)

学習・体験機能	プラネタリウムや科学に関する全天周映像等の投影 親子で楽しむ体験型科学教室、ワークショップ等の実施 京山ソーラーグリーンパーク等周辺施設と連携した学習機会の提供
学校連携機能	新学習指導要領を踏まえた学習プログラムの提供 高校生や大学生の創造的な学習・研究の場としての活用
指導者養成機能	科学教育講師やジュニアリーダー等の養成・研修 理科教員の指導力向上のための実践機会の提供
情報発信機能	科学に関する先進的な取組事例等の情報収集・発信
交流・連携機能	科学に関する広域ネットワークの形成
調査・研究機能	学校や教育機関と連携した活動モデルの提示・普及

②利用者に応じたサービスの提供

平日：主に小中学生等を対象に学校教育と連携したプログラムを提供

休日等：幅広い世代が科学を学ぶことができる生涯学習プログラムを提供

※休日等は、NPO等が主体となったバラエティ溢れるプログラムを週替わりで提供

<管理計画>

- ・未来科学棟が果たすべき役割やセンターとの一体的運営、業務の専門性等を総合的に勘案の上、民間のノウハウの活用が有効な部分について指定管理を導入する。
- ・管理運営に当たっては、高い専門性や豊富な経験を持つ人材の育成・確保が必要である。

<利用促進方策等>

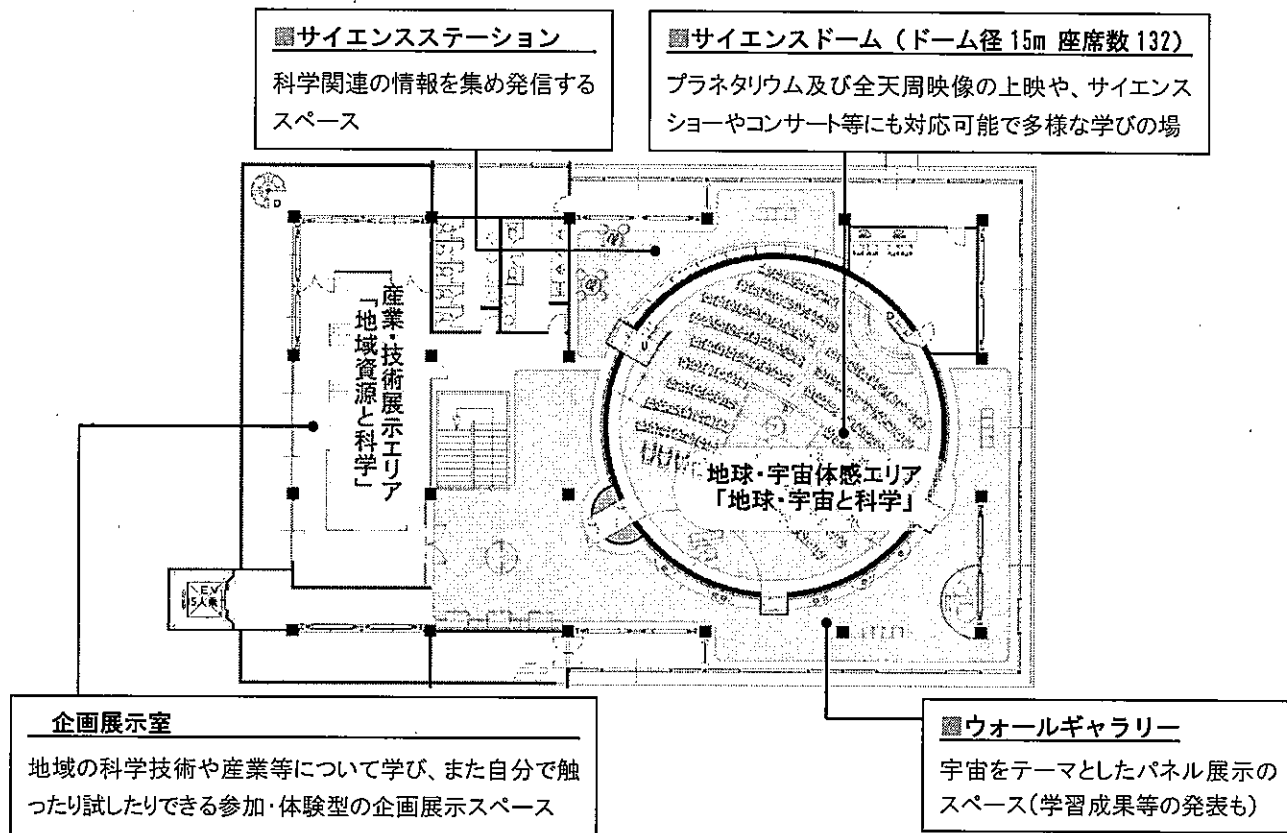
- ・池田動物園、京山ソーラーグリーンパーク、総合グラウンド等周辺施設とのコラボや学校団体利用等、積極的・継続的利用を促進する。

第5章 今後の進め方

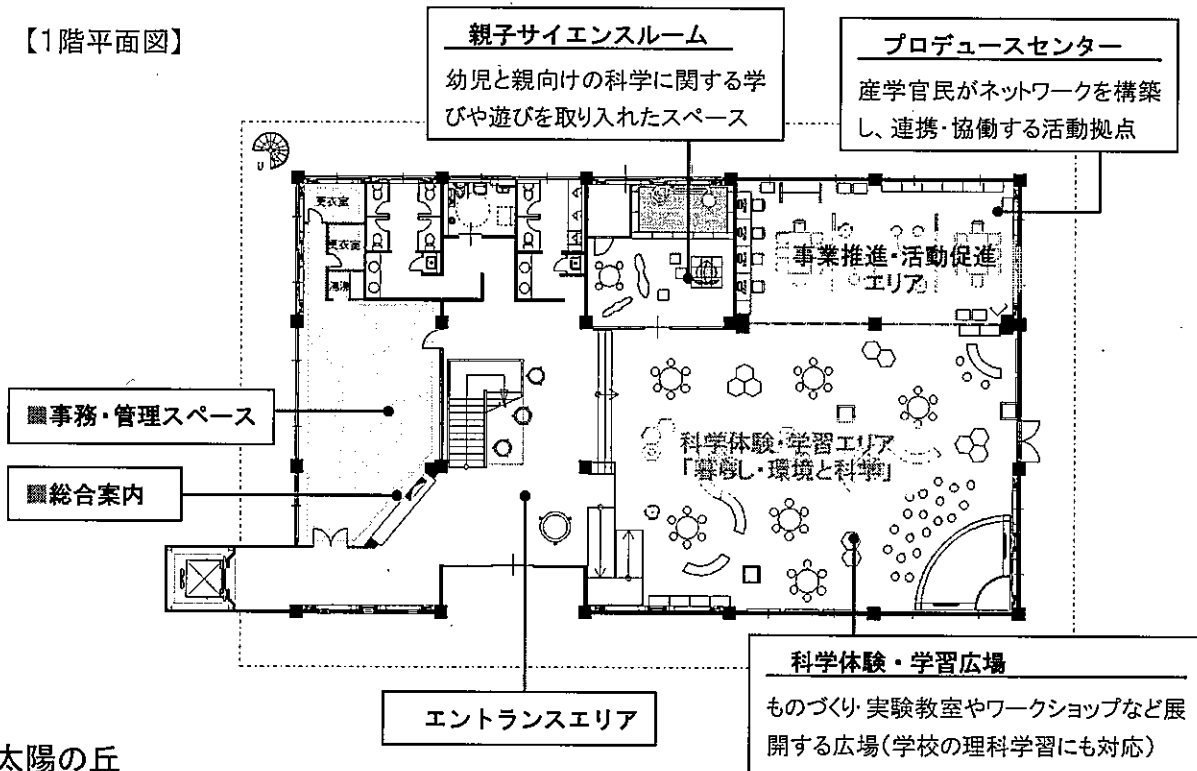
<整備スケジュール>

- ・平成23～24年度 内装等設計、耐震化・内装等工事
- ・平成25年度 供用開始

未来科学棟
【2階平面図】



【1階平面図】



太陽の丘

未来科学棟との一体的な活用

- ・地層断面や岩石標本等による地学に関する学習
- ・星空観望会や未来科学棟内の取組と組み合わせたフィールド学習など